

# 福島第一原子力発電所 中期的リスクの低減目標マップを踏まえた 検討指示事項に対する工程表

2019年9月2日



## 東京電力ホールディングス株式会社

No.①-1	地下水建屋内流入の抑制	P1	No.①-17	2号機SFPからの使用済燃料等の取り出し	P17	No.②-6	構内溜まり水等の除去	P33
No.①-2	建屋内の滞留水処理 ・放射性物質の量を半減以下まで処理	P2	No.①-18	平成23年津波(最大15.5m)を踏まえた滞留水 流出防止	P18	No.②-7	地下貯水槽の撤去	P34
No.①-3	フランジ型タンクの汚染水(Sr処理水)の処理	P3	No.①-19	1, 2号機排気筒の上部解体	P19	No.②-8	放射性分析施設(第2棟)の設置	P35
No.①-4	雨水建屋内流入の抑制 ・2.5m盤, 6m盤法面, 8.5m盤のフェーシング等	P4	No.①-20	メガフロートの対策	P20	No.②-9	除染装置スラッジの安定化処理に関する研究 除染装置スラッジの安定化処理設備設置	P36
No.①-5	雨水建屋内流入の抑制 ・1,2号機廃棄物処理建屋への流入抑制	P5	No.①-21	除染装置スラッジの移送	P21	No.②-10	濃縮廃液の安定化処理設備設置	P37
No.①-6	雨水建屋内流入の抑制 ・3号機タービン建屋への流入抑制	P6	No.①-22	強化されたダスト飛散対策の実施・監視	P22	No.②-11	検討用地震動への対応方針	P38
No.①-7	建屋内の滞留水処理 ・1~3号機原子炉建屋を除く滞留水の処理	P7	No.①-23	原子炉建屋内等の汚染状況把握(核種分析等)	P23	No.②-12	排水路の水の放射性物質の濃度低下	P39
No.①-8	大型機器除染設備の設置	P8	No.①-24	原子炉冷却後の冷却水の性状把握(核種分析)	P24	No.②-13	建屋周辺ガレキの撤去	P40
No.①-9	汚染土一時保管施設の設置	P9	No.①-25	原子炉建屋内等での汚染水の流れ等の状況把握	P25	No.②-14	多核種除去設備処理水の規制基準を満足する形で の海洋放出等	P41
No.①-10	大型保管庫の設置	P10	No.①-26	格納容器内及び圧力容器内の直接的な状況把握	P26	No.②-15	小規模取り出しに係る安全対策	P42
No.①-11	増設焼却設備の設置(伐採木・瓦礫類中の可燃物等)	P11	No.①-27	固体廃棄物貯蔵庫第10棟の設置	P27	No.②-16	本格取り出しに係る安全対策	P43
No.①-12	放射性物質分析施設(第1棟)の設置	P12	No.②-1	燃料デブリ冷却水の完全循環化	P28	No.②-17	構内設備等の長期保守管理計画の策定	P44
No.①-13	減容処理設備の設置(金属・コンクリート)	P13	No.②-2	1~3号機原子炉建屋を除く建屋における滞留水 の処理完了後の地下水流入抑制	P29	No.③-1	原子炉建屋(R/B)内の処理 燃料デブリ冷却の方針決定 燃料デブリ冷却の空冷化	P45
No.①-14	ALPSスラリー(HIC)安定化処理設備の設置	P14	No.②-3	使用済制御棒の取り出し	P30	No.③-2	建屋構造物の劣化対策	P46
No.①-15	3号機SFPからの使用済燃料等の取り出し	P15	No.②-4	使用済燃料プールの水抜き	P31	No.③-3	T.P.2.5m 盤の環境改善	P47
No.①-16	1号機SFPからの使用済燃料等の取り出し	P16	No.②-5	建屋回りのフェーシング等	P32			

下線の項目については、検討中であり、取り纏まり次第提示する

No.	分類		項目															
①-1	液体放射性廃棄物		地下水建屋内流入の抑制 ・サブドレンくみ上げ能力向上 ・サブドレン処理能力向上															
現状の取り組み状況			検討課題										今後の予定					
・サブドレン処理能力向上として集水タンクならびに一時貯水タンクの増強工事を完了。2018年4月より運用開始。 ・サブドレンくみ上げ能力向上について、新設サブドレンピットの大口径化の工事を実施中。2018年度に工事完了予定。12ピットについては工事完了し運用開始。			・一部サブドレンピットで放射能濃度上昇がみられ調査中。調査結果をふまえて大口径化の工事を継続するかについて判断していくことが必要。 ・今後、放射能濃度の状況を踏まえ、増強前ピットの活用についても視野に入れた検討が必要。										・サブドレンピット206、207の増強について、1/2号機山側サブドレン周辺の地盤改良を踏まえ、地盤改良内側は増強前のピットにて運用していく。増強ピット（大口径化）は、サブドレン水質や周辺地下水位を踏まえて今後の要否を判断していく。					
工程表																		
対策	分類	内容	2018年度	2019年度										2020年度				備考
			10月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月 現時点	10月	11月	12月	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
新設ピット増強	現場作業	ピット増強工事																1/2号機山側サブドレン周辺の地盤改良対策後のサブドレン水質や周辺地下水位を踏まえて増強ピット（大口径化）の活用について要否を判断。（206,207ピット）
既設ピット復旧	2018年12月26日運用開始。更なるピット復旧については継続して検討。																	

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。  
 青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

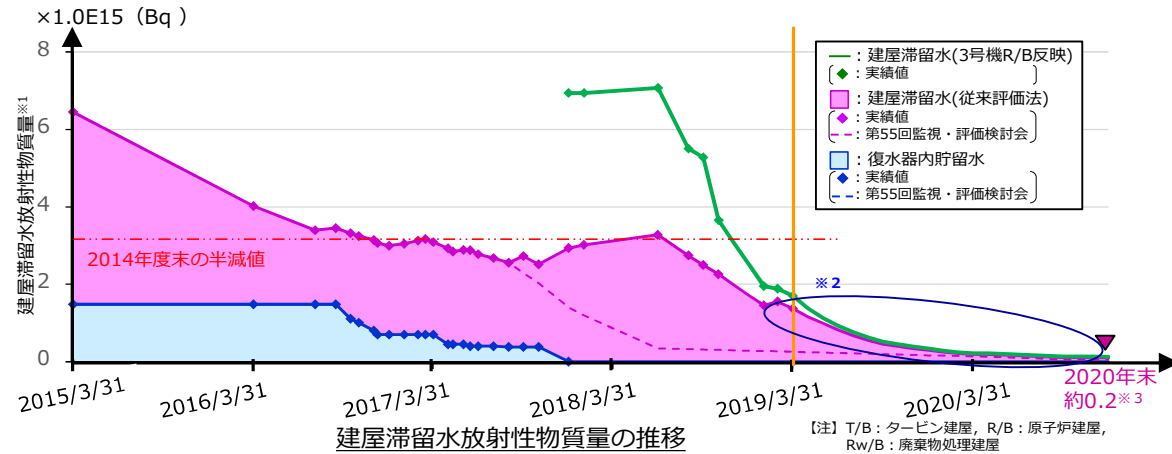
No.	分類	項目
①-2	液体放射性廃棄物	建屋内の滞留水処理 ・放射性物質の量を半減以下まで処理
現状の取り組み状況		検討課題(■は監視・評価検討会において提示されたもの)
<p>・現在、建屋滞留水の放射性物質量は、2014年度末の値から概ね半減した値となっている。</p> <p>・また、汚染水処理装置の余剰の処理済み水を建屋に戻す浄化運転を3、4号側について2018年2月22日から、1、2号機側について2018年4月11日から開始し、放射性物質量の低減を進めている。</p>		<p>・建屋滞留水の放射性物質量については、代表核種（Cs134,137及びSr90）の放射能濃度測定値と貯蔵量から算出する。3号機のR/B滞留水に比較的高い放射能濃度が確認されており、このような局所的な放射能濃度の滞留水の影響により、放射性物質量が増減している。</p> <p>・3号機R/Bの放射能濃度上昇要因について、現在調査継続中。</p> <p>■3号原子炉建屋の効果的な濃度の低減対策の検討(第64回、第67回)</p>
		今後の予定
		・滞留水処理（水位低下）及び浄化運転を継続するとともに、3号機の放射能濃度について、建屋水位低下に合わせて傾向を確認する。

工程表

建屋滞留水水位低下および関連作業の工程については、検討指示事項No.①-7を参照。

建屋滞留水放射性物質量の推移

- ※1 滞留水の放射性物質量は、代表核種（Cs134, Cs137, Sr90）の放射能濃度測定値と貯蔵量から算出。このため局所的に放射能濃度の高い滞留水等の影響にて建屋滞留水の放射能濃度が変動することにより、評価上、放射性物質量が増減することがある。  
なお、高い放射能濃度が確認された2号機R/Bトリス室トリ下部の滞留水については、濃度分布等を確認後、反映予定。
- ※2 今後の放射性物質の供給状況等により、変動する可能性あり。
- ※3 建屋滞留水放射性物質量の予測値



赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。

青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

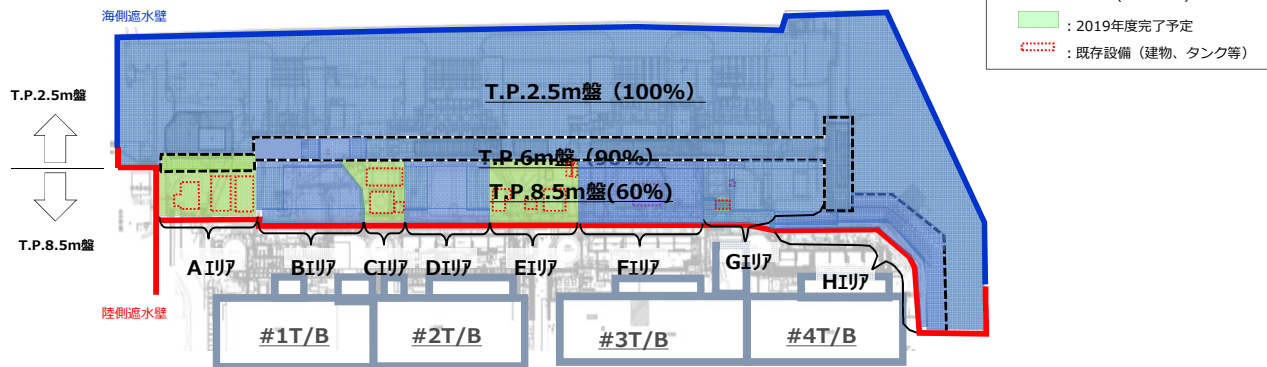
No.	分類	項目	
①-3	液体放射性廃棄物	フランジ型タンクの汚染水（Sr処理水）の処理	
現状の取り組み状況		検討課題（■は監視・評価検討会にて提示されたもの）	今後の予定
<ul style="list-style-type: none"> <li>・フランジ型タンクに貯留しているSr処理水の処理を2018年11月17日に完了。</li> <li>・フランジタンク内多核種処理水の移送を2019年3月27日に完了。</li> </ul>		-	-
工程表			
<p>フランジ型タンクに貯留しているSr処理水の処理を2018年11月17日に完了。</p> <p>フランジ型タンク内多核種処理水の移送を2019年3月27日に完了。</p>			

No.	分類	項目
①-4	液体放射性廃棄物	雨水建屋内流入の抑制 ・2.5m盤, 6m盤法面, 8.5m盤のフェーシング等
現状の取り組み状況		検討課題
・2.5m盤のフェーシングは完了。 ・6m盤及び8.5m盤（陸側遮水壁外側）のフェーシングを継続実施中。		- ・2019年度内に完了予定。

工程表																				
対象箇所	分類	内容	2018年度	2019年度												2020年度				備考
			10月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q			
1号海側ヤード	構造物撤去に関する設計・検討		[Bar]																	
	フェーシングに関する設計・検討（防潮堤との取り合い含む）			[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]												
	現場作業	Aエリア			[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	2019年4月14日着工 フェーシング工事（雨水対策）完了 後も防潮堤基礎工事は継続予定	
		Bエリア	[Bar]																Bエリア完了	
2号海側ヤード	構造物撤去に関する設計・検討		[Bar]																	
	フェーシングに関する設計・検討（防潮堤との取り合い含む）			[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]												
	現場作業	C,Eエリア			[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	2019年4月14日着工 フェーシング工事（雨水対策）完了 後も防潮堤基礎工事は継続予定	
		Dエリア	[Bar]																Dエリア完了	
4号海側ヤード	現場作業	フェーシング	Hエリア	[Bar]														フェーシング困難な狭隘エリアを除きHエリア完了		

注) 既存設備（震災前配管、法面カバー）の影響によりフェーシング困難な狭隘範囲（法肩、斜面小段の一部）を除く。

フェーシングエリア配置図



赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。  
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目															
①-5	液体放射性廃棄物	雨水建屋内流入の抑制 ・1,2号機廃棄物処理建屋への流入抑制  <b>【重要検討課題】</b> ・1,2号機排気筒上部解体後の周辺建屋、瓦礫の撤去計画（廃棄物処理建屋等）															
現状の取り組み状況		検討課題(■は監視・評価検討会において提示されたもの)										今後の予定					
・ガレキ撤去を含めた雨水対策工事について、基本設計を実施完了。 ・2019年3月、FSTR建屋雨水対策工事完了。 ・2019年3月25日から、2号機タービン建屋下屋雨水対策工事に着手。		・既存設備の撤去や配管の閉止方法等について、検討が必要。 ・1号機及び2号機廃棄物処理建屋雨水対策工事においては、1/2号機排気筒解体工事との並行作業を検討中。  ■1,2号機排気筒周辺の高線量配管の撤去・遮へい等の検討（第70回）										・2019年度から、2号機原子炉建屋下屋、1号機及び2号機廃棄物処理建屋雨水対策工事に順次着手し、2020年度上期に完了予定。 ・2019年度から、3号機廃棄物処理建屋雨水対策工事に着手し、2019年度末に完了予定。					
工程表																	
分類	内容	2018年度	2019年度										2020年度				備考
		10月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月 現時点	10月	11月	12月	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
設計・検討																	
現場作業	瓦礫撤去、防水、排水ルート構築																1号機RWBは一部が2020.3Q以降に実施する方向で検討中

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。  
 青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目
①-6	液体放射性廃棄物	雨水建屋内流入の抑制 ・3号機タービン建屋への流入抑制
現状の取り組み状況		今後の予定
<ul style="list-style-type: none"> <li>・雨水対策工事について、詳細設計を実施完了。</li> <li>・2018年11月19日から、ヤード整備工事に着手。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年度上期に雨水対策工事を完了予定。</li> </ul>

工程表																		
分類	内容	2018年度	2019年度											2020年度				備考
		10月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月 現時点	10月	11月	12月	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
設計・検討																		
現場作業	ヤード整備																	
	瓦礫撤去、防水、排水ルート構築																	
	開口部閉鎖																	

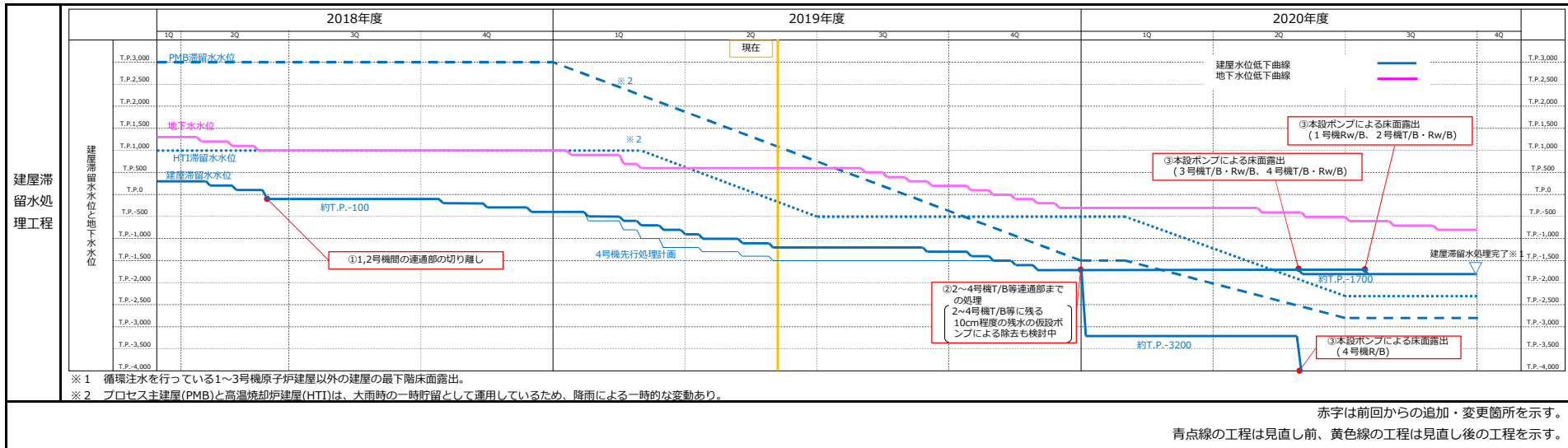
赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。  
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目
①-7	液体放射性廃棄物	建屋内の滞留水処理 ・1～3号機原子炉建屋を除く滞留水の処理
現状の取り組み状況		検討課題(■は監視・評価検討会において提示されたもの)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・循環注水を行っている1～3号機原子炉建屋以外の建屋の最下階の床面露出に向け、建屋水位低下を実施中。</li> <li>・2017年3月に1号機タービン建屋最下階の床面露出。</li> <li>・2017年12月に2～4号機タービン建屋最下階中間部に露出。</li> <li>・建屋の切り離し後の建屋または号機毎の地下水流入量評価を実施中。</li> </ul>		<p>・タービン地下中間部において、1000mSv/h程度の空間線量が確認されており、今後、作業被ばく抑制のため、作業に支障のない1階エリアからの遠隔での床面露出用ポンプ設置等を進めることとしている。遠隔でのポンプ設置に際し、現場干渉物の回避若しくは撤去が必要となる。</p> <p>■孤立エリア等の残水が発見された際に、建屋水位低下工程に影響を与えないような移送対策の検討・準備(第67回) ⇒第73回にて説明</p> <p>■プロセス主建屋等の床面付近に確認された高線量の原因調査と、それを踏まえた今後の検討(第68回)</p> <p>■南東三角コーナー水位停滞の原因究明と対策(第71回,第72回) ⇒第73回にて説明</p>
		今後の予定
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・循環注水を行っている1～3号機原子炉建屋以外の建屋の最下階床面を2020年までに露出させる計画。</li> <li>・遠隔での床面露出用ポンプの設置を想定した現場調査を継続実施中。</li> <li>・降雨が多い時期の地下水流入状況及び滞留水表面上の油分回収状況を踏まえ、4号機の優先処理を計画する。</li> <li>・スラッジ状況調査、3号機R/B滞留水移送ポンプの移送検討の状況を踏まえ、2021年以降の水位低下計画を検討。</li> </ul>

工程表

対象箇所	分類	内容	2018年度		2019年度										2020年度				備考
			10月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月 現時点	10月	11月	12月	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
1～4号タービン建屋	設計・検討		[Bar]																
	許可	実施計画: 1号廃棄物処理建屋の水位管理		[Bar]															2018年10月26日 実施計画変更認可申請 →申請内容の見直しに伴い2019年2月28日申請取り下げ 2019年2月28日 実施計画変更認可申請 2019年4月12日 実施計画変更認可
		実施計画: 2号原子炉建屋滞留水移送装置の設置位置変更	[Bar]																2018年8月30日 実施計画変更認可申請 2019年1月24日 実施計画変更認可
		実施計画: 1～4号機滞留水移送装置の追設					[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	2019年6月13日 実施計画変更認可申請
	現場作業	1号機廃棄物処理建屋の堰の貫通		[Bar]															2019年3月19日完了
		干渉物撤去・床面露出用ポンプ設置(被ばく低減対策含む)		[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	
		油分回収(3号機、4号機タービン建屋最下階)		[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	水位低下に伴い、追加で発生した油分を回収中
	運用	ダスト対策(地下1階(最下階))		[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	
		建屋滞留水水位低下	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	
		建屋滞留水処理	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	
4号機の建屋滞留水の優先処理	フランジ型タンク内汚染水処理	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	2018年11月17日 フランジ型タンク内S <sub>2</sub> 処理水の浄化処理完了 2019年3月27日 フランジ型タンク内ALPS処理水の溶接型タンク移送完了	
	地下水流入量評価	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]		
								地下水流入量の状況や滞留水表面上に確認された油分回収作業の進捗状況等を踏まえて計画											
								[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	[Bar]	





No.	分類	項目	
①-8	固体放射性廃棄物	大型機器除染設備の設置	
現状の取り組み状況		検討課題	今後の予定
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2018年3月26日実施計画変更認可。</li> <li>・5/11に性能試験終了。5/14より実運用を開始。</li> </ul>		-	-
工程表			
2018年5月14日より実運用開始済			

No.	分類	項目																		
①-9	固体放射性廃棄物	汚染土一時保管施設の設置																		
現状の取り組み状況		検討課題										今後の予定								
<ul style="list-style-type: none"> <li>汚染土専用貯蔵庫の基本設計を実施中。 (施設基本構造の検討)</li> <li>設置工事については設計の進捗にあわせて検討中。</li> </ul>		-										<ul style="list-style-type: none"> <li>汚染土については、屋内保管となる汚染土専用貯蔵庫に保管する。 2020年頃の運用開始を目指す。</li> </ul>								
工程表																				
分類	内容	2018年度	2019年度										2020年度				備考			
		10月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月 現時点	10月	11月	12月	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q				
設計・検討		[Blue bar spanning from 10/2018 to 9/2019]																		
許認可	実施計画																		設計・検討の進捗に伴う変更の可能性あり	
現場作業	設置工事																		竣工後、速やかに汚染土の搬入を実施	

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。  
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目															
①-10	固体放射性廃棄物	大型保管庫の設置															
現状の取り組み状況		検討課題										今後の予定					
・実施計画変更認可申請中。		-										・2019年度上期着工予定。					
工程表																	
分類	内容	2018年度	2019年度										2020年度				備考
		10月~3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月 現時点	10月	11月	12月	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
設計・検討																	
許認可	実施計画																2018年11月30日 変更認可申請
現場作業	準備作業																6月3日 地盤改良工事着手 進捗状況を踏まえて工程見直し
	設置工事																11月上旬 基礎工事着手予定
運用	架台据付け																2021年も引き続き実施
	吸着塔移設																2021年以降に実施

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。  
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目															
①-11	固体放射性廃棄物	増設焼却設備の設置（伐採木・瓦礫類中の可燃物等）															
現状の取り組み状況		検討課題										今後の予定					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2018年4月19日実施計画変更認可。</li> <li>・設置工事を実施中。</li> </ul>		—										<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年度に竣工予定。</li> </ul>					
工程表																	
分類	内容	2018年度	2019年度										2020年度				備考
		10月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月 現時点	10月	11月	12月	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
現場作業	設置工事																
運用	試運転																2020年竣工予定
	本格運転（焼却処理）																2020年度運転開始予定

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。  
 青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目																
①-12	固体放射性廃棄物	放射性物質分析施設（第1棟）の設置																
現状の取り組み状況		検討課題										今後の予定						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2017年3月7日実施計画変更認可。</li> <li>・設置工事を実施中。</li> </ul>		-										<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年度末頃に運用開始予定。</li> </ul>						
工程表																		
分類	内容	2018年度	2019年度											2020年度				備考
		10月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月 現時点	10月	11月	12月	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
現場作業	設置工事																	
運用	瓦礫等・水処理二次廃棄物の分析																	

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。  
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目																
①-13	固体放射性廃棄物	減容処理設備の設置（金属・コンクリート）																
現状の取り組み状況		検討課題										今後の予定						
・基本設計を実施中。 （建屋内の減容対象物と機器の動線・配置等の検討）		-										・2022年度に竣工予定。						
工程表																		
分類	内容	2018年度		2019年度										2020年度				備考
		10月~3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月 <small>現時点</small>	10月	11月	12月	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
設計・検討		[Blue bar spanning Oct 2018 to Aug 2019]																
許認可	実施計画							[Dashed blue bar from Sep 2019 to Dec 2019]	[Yellow bar from Oct 2019 to Dec 2019]									申請手続きの進捗に伴う工程見直し
現場作業	準備工事												[Blue bar in 1Q 2020]					
	設置工事																[Blue arrow from 2Q 2020 to 4Q 2020]	2022年度竣工予定
運用	減容処理																	竣工後、速やかに実施

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。  
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目																
①-14	固体放射性廃棄物	ALPSスラリー(HIC)安定化処理設備の設置																
現状の取り組み状況		検討課題										今後の予定						
<p>→設置までのスケジュール(案)を第7回特定原子力施設放射性廃棄物規制検討会にて提示。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2017年度に概念設計を実施。</li> <li>・2018年度は構内での設置可能場所の選定, 脱水物を収納する容器の検討を行い, 処理設備の基本設計を実施。</li> <li>・現在, 基本設計を検討中。</li> <li>・第73回検討会にて, 設置までのスケジュール(案)を提示。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・スラリー脱水物保管容器, 線量影響の軽減及び処理設備の基本仕様等の具体的設計検討。</li> <li>・HICからスラリーの抽出, 脱水物の充填・搬出, メンテナンス時等, 設備運用時の安全性確保。</li> <li>・建屋構造, 運用動線が成立する具体的機器配置設計検討。</li> </ul> <p>■HICの劣化状況を踏まえた全体の処理スケジュールの検討(第73回)</p>										<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年度は, 2018年度に引き続き基本設計を進め, 2020年度に実施計画変更認可申請を行う。</li> <li>・2021年度に運用開始予定。</li> </ul>						
工程表																		
分類	内容	2018年度			2019年度									2020年度				備考
		10月~3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月 現時点	10月	11月	12月	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
設計・検討	フィルタープレス設計検討 運用設計	[Bar]																
	機械設備設計 電気計装設備設計				[Bar]													
	配置設計 建屋設計																	
許認可	実施計画																	
製作・現場作業	建屋設置																	
	安定化処理設備(フィルタープレス設備他)製作																	
	安定化処理設備(フィルタープレス設備他)設置																	
運用	スラリー処理																2021年度に運用開始予定	

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。  
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。



No.	分類	項目
①-15	使用済燃料プール	3号機SFPからの使用済燃料等の取り出し
現状の取り組み状況		検討課題(■は監視・評価検討会で提示されたもの)
<ul style="list-style-type: none"> <li>変形・破損した燃料取り出し及び輸送・保管に係わる検討。</li> <li>プール内ガレキ撤去、3号機から共用プールへのプール燃料取り出し。</li> <li>4/15～燃料取り出し開始。7/4～燃料取り出し再開。2128体/566体の取り出し完了。7/24～燃料取扱設備点検中。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>遠隔操作の技術力向上。</li> <li>変形・破損した燃料取り出し及び輸送・保管に係わる計画の立案。</li> <li>■燃料ラック上の瓦礫撤去及び変形燃料の把握（第71回） ⇒第73回にて説明</li> </ul>
		今後の予定
		<ul style="list-style-type: none"> <li>プール内ガレキ撤去作業を進めていく。</li> <li>3号機から共用プールへのプール燃料取り出しを継続。</li> </ul>

		工程表																備考
分類	内容	2018年度		2019年度										2020年度				
		10月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
設計・検討	変形・破損燃料の取り出し及び輸送・保管に係わる計画	[Gantt chart bar from Oct 2018 to Jun 2019]																
許認可	健全燃料取り出し	[Gantt chart bar from Oct 2018 to Feb 2019]																2019年3月12日 変更認可
	破損燃料用輸送容器	[Gantt chart bar from Aug 2019 to Dec 2019]																2019年8月20日 実施計画変更認可申請
	共用プール破損燃料ラック	[Gantt chart bar from Jul 2019 to Dec 2019]																2019年7月11日 実施計画変更認可申請
	共用プール破損燃料取扱時の遮へい水深	[Gantt chart bar from Dec 2019 to Jan 2020]																ラック変更申請時コメントを踏まえ追加工程調整中
	破損燃料取り出し	[Gantt chart bar from Oct 2019 to Dec 2019]																
現場作業	燃料取扱設備試運転	[Gantt chart bar from Oct 2018 to Nov 2018]																
	破損燃料用ラック設置	[Gantt chart bar from Jan 2020 to Feb 2020]																工程調整中
運用	プール内ガレキ撤去(訓練を含む)	[Gantt chart bar from Feb 2019 to Feb 2020]																2/15～ガレキ撤去(訓練含む)開始 燃料取扱設備点検による中断を反映
	燃料取り出し実機訓練	[Gantt chart bar from Mar 2019 to Jun 2019]																2/14～燃料取り出し訓練および関連作業開始 6/27 燃料取り出し訓練完了 燃料取扱設備点検による中断を反映
	燃料取り出し	[Gantt chart bar from Apr 2019 to Dec 2019]																燃料取り出し作業の完了時期は、作業員の習熟度や変形燃料の体数等により変動する。

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。  
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目															
①-16	使用済燃料プール	1号機SFPからの使用済燃料等の取り出し 【重要検討課題】 オペレーティングフロアの除染、ウェルプラグの処置、燃料取り出し方法の検討															
現状の取り組み状況		今後の予定															
<ul style="list-style-type: none"> <li>・北側ガレキの撤去。</li> <li>・ずれが確認されたウェルプラグの処置計画の検討。</li> <li>・中央および南側ガレキ（既設機器含む）撤去計画の策定。</li> <li>・燃料取り出し用カバーや燃料取扱設備等の設計。</li> </ul>		(1)中央および南側ガレキ（既設機器含む）の撤去計画の立案。 (2)ずれが確認されたウェルプラグの処置計画の立案。 (3)燃料取り出し用カバーや燃料取扱設備等の計画の立案。															
		ガレキ撤去作業の進捗に応じてガレキ状況・ウェルプラグ状況や使用済燃料プールの調査を実施する。その結果を踏まえ、ガレキ撤去、SFP保護等、ウェルプラグ処置・移動・撤去、既設天井クレーン・FHM撤去の作業計画・工程を立案の上、都度見直ししながら、ガレキ撤去等の2021年度完了を目処に作業を進めていく。															
工程表																	
分類	内容	2018年度	2019年度										2020年度				備考
		10月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月 現時点	10月	11月	12月	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
設計・ 検討	ガレキ撤去等工事の計画																適宜、現場調査を実施して設計へ反映
	燃料取り出し用カバー・ 燃料取扱設備の設計																
許可 実施計画	南ガレキ撤去																作業開始の3～6か月前に実施計画を申請する 【南西側】 2018年11月9日 実施計画変更認可申請 2019年3月1日 変更認可 進捗状況を踏まえて工程見直し
	SFP保護等																【床上支障ガレキ撤去】 2018年11月9日 実施計画変更認可申請 2019年3月1日 変更認可 進捗状況を踏まえて工程見直し
	ウェルプラグ処置・ 移動・撤去																作業開始の3～6か月前に実施計画を申請する
	ガレキ撤去																北側・中央・南側
	SFP保護等																準備工事（支障ガレキ撤去等）含む
	ウェルプラグ処置・移動・撤去																
	既設天井クレーン・FHM撤去																

赤字は前回からの変更箇所を示す。

青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目
①-17	使用済燃料プール	2号機SFPからの使用済燃料等の取り出し  【重要検討課題】 オペレーティングフロアの調査、燃料取り出し方法の検討
現状の取り組み状況		今後の予定
<ul style="list-style-type: none"> <li>・オペレーティングフロア調査等及びこれらの計画策定。</li> <li>・取り出し用コンテナまたはカバーや燃料取扱設備等の設計。</li> </ul>		<p>(1)原子炉建屋上部解体等の計画立案</p> <p>(2)オペフロの除染・遮へい計画の立案</p> <p>(3)燃料と燃料デブリの取り出し用コンテナを共用するプラン（プラン①）と個別に設置するプラン（プラン②）の選択</p> <p>(4)燃料取り出し用カバーや燃料取扱設備等の計画の立案</p> <p>■オペレーティングフロアの線量、汚染状況調査に適した測定方法の検討（第71回）</p> <p>・原子炉建屋上部解体及びオペフロの除染・遮へいについて、オペフロ内調査等を実施し、作業計画を立案の上、都度、作業計画・工程を見直ししながら、2022年度完了を目標に作業を進めていく。</p> <p>・燃料と燃料デブリの取り出し用コンテナを共用するプラン（プラン①）と個別に設置するプラン（プラン②）の選択について、燃料取り出し開始時期やデブリ取り出しの状況を踏まえ、適切な時期（2019年度目途）に選択に向けた検討を行う。</p> <p>・燃料取り出し用カバー及び燃料取扱設備について、プラン②の場合2023年度、プラン①の場合2024年度の設置完了を目標に作業を進め、燃料取り出し開始時期は、プラン②2023年度、プラン①2024年度を目標とする。</p>

工程表

分類	内容	2018年度	2019年度												2020年度				備考
		10月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月 現時点	10月	11月	12月	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q			
設計・検討	建屋上部解体等の設計・計画	[Progress bar from Oct 2018 to Dec 2019]																	
	燃料取り出し用カバーや燃料取扱設備等の計画	[Progress bar from Oct 2018 to end of 2020]																	
許認可	実施計画：建屋上部解体																		
現場作業	オペレーティングフロア内調査等	[Progress bar from Oct 2018 to Dec 2019]																	
	建屋上部解体等																		

\*オペフロ内調査等の結果を踏まえ、2020年度のいずれかのタイミングで開始

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。

青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目
①-18	地震・津波	平成23年津波（最大15.5m）を踏まえた滞留水流出防止 ・開口部閉塞（3号タービン建屋，プロセス主建屋）
現状の取り組み状況		検討課題（■は監視・評価検討会で提示されたもの）
<p>●「閉止困難箇所」を含め、全開口箇所について工夫を行い対策を行うことを報告（第65回）、優先順位を踏まえ対策実施区分を見直し（第68回）</p> <p>・【区分②】3号タービン建屋：津波対策工事完了（2019年3月25日全27箇所の対策が完了）。</p> <p>・【区分③】2，3号機原子炉建屋外部のハッチ・階段11箇所，4号機タービン建屋等のハッチ9箇所を2020年度上期完了を目標に閉止する工事を実施中。（2019/9/2 現在20箇所中6箇所の対策が完了）</p> <p>・【区分④】2021年以降も滞留水が残る1～3号機原子炉建屋の扉等を2020年完了を目標に閉止する。（2019/9/2 現在14箇所中1箇所の対策が完了）</p> <p>・【区分⑤】区分④以外の残りの建屋（1～4号機廃棄物処理建屋，4号機原子炉建屋・タービン建屋）の開口部を2021年度完了を目標に閉止する。</p> <p>●切迫性が高い千島海溝津波に対して、2020年度上期完了を目標に、アウターライズ津波防潮堤を北側に延長する工事を実施中予定。</p>		<p>原子炉建屋：流動解析等を用いた流出リスクの評価。</p> <p>■T.P.2.5m盤のサブドレン集水タンク等設備の損傷した場合の影響とそれに伴う復旧対応可否評価（第66回）</p> <p>(1)建屋開口部の閉塞作業を進める (2)千島海溝津波防潮堤の設置作業を進める</p>

対象箇所	分類	内容	2018年度	2019年度										2020年度				備考	
			10月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月 現時点	10月	11月	12月	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
【区分②】 3号タービン建屋	現場作業	開口部閉塞																2019年3月25日完了	
【区分③】 2,3号機原子炉建屋の外部ハッチ等	設計・検討																		
	現場作業	開口部閉塞																2019年3月12日着手	
【区分④】 1～3号機原子炉建屋の扉等	設計・検討																		
	現場作業	開口部閉塞																	区分③工事の中で、1箇所先行実施
【区分⑤】 1～4号機廃棄物処理建屋，4号機原子炉建屋・タービン建屋	設計・検討																		
	現場作業	開口部閉塞																	完了目標：2021年度末
千島海溝津波防潮堤	設計・検討																		
	現場作業	防潮堤設置																	2019年7月29日着手

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。  
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目																
①-19	地震・津波	1, 2号機排気筒の上部解体																
現状の取り組み状況		検討課題										今後の予定						
<p>→遠隔解体装置製作完了後に実証試験)完了(2019年4月)→</p> <p>→排気筒解体工事準備作業(路盤整備→クレーン高さ確認)が完了(2019年7月18日)→</p> <p>・排気筒解体工事着手(2019年8月1日)</p>												<p>→排気筒解体工事準備作業が完了したため、7月最終週からの解体着手に向けて、通信状態などの最終動作確認を進める。</p> <p>・解体工事について、天候不順や装置調整で作業が順延する場合には、都度、工程を見直ししながら、2019年度完了を目標に作業を進めていく。</p>						
工程表																		
分類	内容	2018年度	2019年度										2020年度				備考	
		10月~3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月 現時点	10月	11月	12月	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
設計・検討	実証試験																	2019年4月2日完了
許認可	実施計画																	2018年7月5日 変更認可申請 2019年2月27日 変更認可
現場作業	解体準備作業 (周辺設備養生・装置組立等)																	路盤整備・クレーン高さ確認完了(7月18日) 最終動作確認(7月22日~7月31日)
	解体工事																	7月最終週(7/29~8/2)から8月1日から解体着手予定

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。  
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目
①-20	地震・津波	メガフロートの対策
現状の取り組み状況		今後の予定
<p>・5, 6号滞留水を一時貯留したメガフロートについて、現在滞留水は処理し、ろ過水をバラスト水として貯留し港湾内に係留。</p> <p>・早期リスク低減の観点（津波による周辺設備の損傷防止）から、港湾内で着底させ、護岸及び物揚場として再活用する。</p> <p>・2019年5月より着底マウンド造成およびバラスト水処理作業に着手。</p>		<p>-</p> <p>・2020年度上期にメガフロートを港湾内に着底・内部充填することにより津波リスク低減完了を計画。</p>

工程表

分類	内容	2019年度												2020年度				備考
		2018年度 10月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月 現時点	10月	11月	12月	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
許認可	実施計画	[Bar]															2018年4月24日 実施計画変更認可申請 2019年4月12日 実施計画変更認可	
	その他申請関係 (公有水面埋立法他)	[Bar]															2018年8月10日 港湾法届出 2018年9月19日 公共用財産使用許可変更申請許可（防衛盛土設置箇所） 2019年3月26日 公共用財産使用許可変更申請許可（メガフロート有効利用場所） 2018年11月1日 公有水面埋立免許認可	
現場 作業	準備作業	[Bar]															2018年11月12日 海側遮水壁防衛盛土（海上投入）工事開始 2019年4月24日 海側遮水壁防衛盛土（海上投入）工事完了	
	移動・バラスト水処理・ 内部除染				[Bar]												2019年5月16日 メガフロート移動（現況⇒1-4号機取水路開渠南側）完了 2019年5月28日 バラスト水処理作業開始 2019年7月16日 内部除染作業開始	
	着底マウンド構築				[Bar]												2019年5月20日 着底マウンド造成作業開始	
	着底・内部充填													[Bar]			2020年度2Qに津波リスク低減完了予定	
	護岸工事・盛土工事															[Bar]		2021年度4Qに護岸工事等が完了、その後有効利用開始予定

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。  
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目																
①-21	地震・津波	除染装置スラッジの移送																
現状の取り組み状況		検討課題										今後の予定						
<ul style="list-style-type: none"> <li>遠隔操作アーム，吸引装置を用いてスラッジを抜き出す方法を検討中。</li> <li>プロセス主建屋1階の除染作業を実施中。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>抜き出し装置を設置するプロセス主建屋1階が高線量であることから除染の検討。</li> <li>高線量スラッジを取り扱うことから遮へい，漏えい対策等の安全対策の検討。</li> </ul>										<ul style="list-style-type: none"> <li>抜き出し装置の更なる具体化，安全対策を含めた詳細設計を実施し，2020年度内にスラッジを高台へ移送開始する。</li> </ul>						
工程表																		
分類	内容	2018年度	2019年度										2020年度				備考	
		10月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月 <small>現時点</small>	10月	11月	12月	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
設計・検討		[Blue bar]																
許認可	実施計画（抜き出し装置、保管容器）							[Blue dashed bar]	[Yellow bar]									申請手続きの進捗に伴う工程見直し
製作・現場作業	床面除染機器等製作・モックアップ試験	[Blue bar]																3月26日 モックアップ試験完了
	除染装置ブラッシング、床面除染、遮へい設置等	[Blue bar]																
	抜き出し装置・保管容器 詳細設計・製作							[Blue bar]										抜き出し装置・保管容器の詳細設計を実施中
	抜き出し装置設置																[Blue bar]	
運用	スラッジ抜き出し・移送																	[Blue arrow] 2021年度完了見込み

赤字は前回からの変更箇所を示す。

青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目
①-22	環境への負荷低減	強化されたダスト飛散対策の実施・監視 ・1号機オペレーティングフロアガレキ撤去時のダスト飛散対策の実施・監視
現状の取り組み状況		今後の予定
<p>・ガレキ撤去作業に伴うダスト飛散対策は、以下を実施中。</p> <p>(1)作業前(定期散布), 作業後の飛散防止剤の散布。</p> <p>(2)更なる低減のための防風フェンスを設置。(1号機)</p> <p>(3)緊急散水用の散水設備を設置。(1号機)</p> <p>・構内および敷地境界にて, ダストモニタによる24時間監視。</p>		<p>【1号機】</p> <p>(1)中央および南側ガレキ(既設機器含む)の撤去計画を踏まえた, ダスト飛散対策の立案。</p> <p>(2)ずれが確認されたウェルブラグの処置計画を踏まえた, ダスト飛散対策の立案。</p> <p>【2号機】</p> <p>(1)屋根および壁の撤去計画を踏まえた, ダスト飛散対策の立案。</p> <p>【1号機】</p> <p>(1), (2): ガレキ撤去計画及びウェルブラグ処置(2021年度完了を目処)計画を踏まえ, ダスト飛散対策を検討・実施していく。</p> <p>【2号機】</p> <p>(1): オペフロ内調査等を実施し, 作業計画を立案の上, 2022年度完了を目途にダスト飛散対策を検討していく。</p>

工程表

実施項目	分類	内容	2018年度		2019年度									2020年度				備考			
			10月~3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q				
1号機 オペレーティングフロア ガレキ撤去	設計・検討	1号機ガレキ撤去計画とダスト飛散対策	→																		
	許認可	実施計画: 南ガレキ撤去																			作業開始の3~6か月前に実施計画を申請する 【南西側】 2018年11月9日 実施計画変更認可申請 2019年3月1日 変更認可 進捗状況を踏まえて工程見直し
		実施計画: SFP保護等																			【床上支障ガレキ撤去】 2018年11月9日 実施計画変更認可申請 2019年3月1日 変更認可 進捗状況を踏まえて工程見直し
現場作業	ガレキ撤去		→																		
	SFP保護等		→																		
	既設天井クレーン・ FHM撤去		→																		
1号機 ウェルブラグ の処置	設計・検討	1号機ウェルブラグの 処置計画とダスト飛散	→																		
	許認可	実施計画																			作業開始の3~6か月前に実施計画を申請する
	現場作業	ウェルブラグ 処置・移動・撤去																			
2号機 原子炉建屋 上部解体	設計・検討	2号機屋根および壁の 撤去計画とダスト飛散 対策	→																		
	許認可	実施計画: ダストモニタ設置																			
		実施計画: 上部解体																			
現場作業	オペレーティングフロ ア内調査等 上部建屋解体		→																		

赤字は前回からの変更箇所を示す。

青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。



No.	分類	項目
①-23	廃炉・施設内調査	原子炉建屋内等の汚染状況把握（核種分析等）
現状の取り組み状況		検討課題
<p>○1～3号機原子炉建屋1階の線量低減を実施状況と現状の雰囲気線量</p> <p>【1号機】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北西・西エリアは空間線量を50%程度低減。 (平均約4mSv/h(2014年3月)⇒約2mSv/h(2016年8月))</li> <li>・南側エリアはAC配管・DHC設備等の高線量機器が主線源。</li> <li>・北東・北エリアは狭陰かつ重要設備が配置されており線量低減ができていない。</li> </ul> <p>【2号機】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空間線量を70%程度低減。 (平均約15mSv/h(2013年3月)⇒約5mSv/h(2016年8月))</li> <li>・高所部構造物・HCU等が主線源。</li> </ul> <p>【3号機】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北西・西エリアは空間線量を50%程度低減。 (平均約16～25mSv/h(2014年6月)⇒約9mSv/h(2016年8月))</li> <li>・高所部構造物・HCU・機器ハッチレール部等が主線源。</li> <li>・北・南・北東エリアは依然線量が高い</li> <li>・南西エリアは上部階からの汚染の移行により、十分な線量低減ができていない。</li> </ul>		<p>【1号機】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・X-6ベネのある南側エリアには、線量寄与が大きい高線量設備（AC配管・DHC設備など）があり、当該設備の除染工法・撤去工法等の線量低減対策の検討が必要。</li> </ul> <p>【2/3号機】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・依然として線量の高い箇所があることから、線源となっている機器に対するの除染工法・撤去工法等の線量低減対策の検討が課題。</li> <li>・主な残存線源は高所部機器・残存小瓦礫および重要機器(計装ラック)廻り・HCU等。</li> </ul>
		今後の予定
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・各号機における線量低減対策方針を検討。 (今後計画しているPCV内部調査等の燃料デブリ取り出し準備に係る機器撤去工事等による線量低減実績反映)</li> </ul>

工程表

分類	内容	2018年度		2019年度										2020年度				備考
		10月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月 現時点	10月	11月	12月	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
1号機	設計・検討 環境改善(線量低減・干渉物撤去)の概念検討	[Bar]																
	現場作業 環境改善(線量低減・干渉物撤去)の工法検討			[Bar]														
2号機	設計・検討 PCV内部調査のための環境改善(干渉物撤去)の検討	[Bar]																
	現場作業 環境改善(線量低減・干渉物撤去)の工法検討	[Bar]																2018年度の干渉物撤去実績を踏まえた、環境改善(線量低減・干渉物撤去)の検討
3号機	設計・検討 PCV内部調査のための環境改善(線量低減・干渉物撤去)工事	[Bar]																2018年10月19日完了
	現場作業 対策工事																	線量寄与が大きい高線量設備（AC配管・DHC設備など）の対策工事の実施などを検討
3号機	設計・検討 環境改善(線量低減・干渉物撤去)の検討 ステップ1	[Bar]																原子炉建屋1階の機器撤去、高線量箇所への遮へい体設置を検討。
	現場作業 環境改善(線量低減・干渉物撤去)の検討 ステップ2																	ステップ1の作業実績を踏まえた、環境改善(線量低減・干渉物撤去)の検討。
3号機	設計・検討 環境改善(線量低減・干渉物撤去)の検討 ステップ3																	ステップ2の作業実績を踏まえた、環境改善(線量低減・干渉物撤去)の検討。
	現場作業 対策工事ステップ1																	原子炉建屋1階の機器撤去、高線量箇所への遮へい体設置工事を実施。2019年6月より準備工事を実施中。
3号機	現場作業 対策工事ステップ2																	

No.	大項目	中項目	検討指示事項
①-24	廃炉・施設内調査	原子炉冷却後の冷却水の性状把握（核種分析等）	
現状の取り組み状況		検討課題(■は監視・評価検討会で提示されたもの)	今後の予定
<p>・現在の注水冷却方式を維持し、取り出し規模が拡大される段階で、冷却方式だけではなく、放射性物質の閉じ込め、臨界管理等のシステム検討や、燃料デブリ加工時の冷却方法の検討等、総合的に冷却方式を検討中。</p>		<p>・冷却方法の変更に伴うその他の安全機能（閉じ込め、臨界管理等）への影響の検討について、定量的な評価が困難なものがある。</p>	<p>・2021年の燃料デブリ取り出し開始に向けた検討の一環として、冷却方式の検討を行う。</p>

工程表

分類	内容	2018年度	2019年度										2020年度				備考	
		10月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月 現時点	10月	11月	12月	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
設計・ 検討	水循環システム構築に向けたサプレッションチェンバ等からの取水技術開発	要求仕様の検討	[Blue bar]															
	要素技術の開発	総合試験	[Blue bar]															
		PCV内水位の計測・制御を行うシステムの設置検討												[Blue bar with arrow]				
	運用	建屋滞留水水位低下	[Blue bar]															2020年内（建屋滞留水処理完了予定）

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。

青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	大項目	中項目	検討指示事項	
①-25	廃炉・施設内調査	原子炉建屋内等での汚染水の流れ等の状況把握		
現状の取り組み状況			検討課題(■は監視・評価検討会で提示されたもの)	今後の予定
・原子炉格納容器(PCV)下部から原子炉建屋への汚染水漏れい箇所調査等を実施。 【1号機】 ・サンドクッションドレンラインからの流水を確認。 ・真空破壊ラインベローズからの漏れいを確認。 【2号機】 ・原子炉建屋地下階の気中部からの漏れいなし。 (サブプレッションチェンバ水没部からの漏れいの可能性) 【3号機】 ・原子炉建屋1階主蒸気配管ベローズからの漏れいを確認。			・未確認のPCV下部からの漏れい箇所の調査方法の検討。 (2号機サブプレッションチェンバ水没部の漏れい経路の特定等)	・2021年の燃料デブリ取り出し開始に向けた検討の一環として、調査方法の検討を行う。

工程表

分類	内容	2018年度	2019年度										2020年度				備考	
		10月~3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月 現時点	10月	11月	12月	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
設計・検討	水循環システム構築に向けたサブプレッションチェンバ等からの取水技術開発	要求仕様の検討	[Blue bar]															
	要素技術の開発	総合試験	[Blue bar]															
		PCV内水位の計測・制御を行うシステムの設置検討	[Blue bar]										[Blue bar with arrow]					
	運用	建屋滞留水水位低下	[Blue bar]															2020年内(建屋滞留水処理完了予定)

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。

青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目
①-26	廃炉・施設内調査	格納容器内及び圧力容器内の直接的な状況把握
現状の取り組み状況		検討課題
<p>○原子炉格納容器（PCV）内部調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遠隔調査装置を開発し、PCV内部調査を進めている。至近の調査状況は下記の通り。</li> <li>【1号機】</li> <li>・走行型調査装置が1階グレーチング上から装置先端部を吊り下ろすことで、ベデスタル外側地下階の映像・線量率を取得（2017年3月）。</li> <li>【2号機】</li> <li>・テレスコピック式調査装置の先端をベデスタル内グレーチング脱落部まで到達させた後に装置先端部を吊り下ろすことで、ベデスタル内の映像・線量率データを取得（2018年1月）。</li> <li>・装置先端にフィンカ構造を有した調査装置を用いて、ベデスタル内の堆積物の状態を確認（2019年2月）</li> <li>【3号機】</li> <li>・水中ROVIにてベデスタル内の映像を取得（2017年7月）。</li> </ul> <p>○原子炉圧力容器（RPV）内部調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オペフロ上側からアクセスする「上部穴開け調査工法」、原子炉建屋外側からアクセスする「側面穴開け調査工法」について、アクセス装置の開発、調査方式の開発を実施。</li> </ul>		<p>○原子炉格納容器（PCV）内部調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広範囲かつ詳細な映像の取得や放射線計測などができる、多機能なPCV内部調査装置の開発と、当該調査装置のPCV内へのアクセスルートの構築。</li> </ul> <p>○原子炉圧力容器（RPV）内部調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アクセス装置・調査装置の開発、調査の実施に必要な付帯システムの検討等。</li> </ul>
		<p>○原子炉格納容器（PCV）内部調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開発した調査装置によるPCV内部調査を計画。</li> </ul> <p>○原子炉圧力容器（RPV）内部調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査装置、調査システムの開発及び実機での調査方法の検討。</li> </ul>

工程表

実施項目	分類	内容	2018年度	2019年度												2020年度				備考
			10月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月 現時点	10月	11月	12月	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q			
1号機X-2ベネからの潜水機能付棒型アクセス・調査装置を用いたPCV内部調査	許認可	実施計画																	2018年7月25日 変更認可申請 2019年3月1日 変更認可	
	現場作業	アクセスルート構築																		作業の進捗によっては、完了時期は前後する可能性がある。
	運用	内部調査 (少量サンプリングを含む)																	* アクセス・調査装置の開発状況によっては、時期が前後する可能性がある	
A型輸送	輸送																			
2号機X-6ベネからのガイドパイプを用いたPCV内部調査	運用	内部調査																	* 2019年2月13日調査実施	
2号機X-6ベネからのアーム型アクセス・調査装置を用いたPCV内部調査	許認可	実施計画																	2018年7月25日変更認可申請	
	現場作業	アクセスルート構築																		作業の進捗によっては、完了時期は前後する可能性がある。
	運用	内部調査 (少量サンプリングを含む)																		* アクセス・調査装置の開発状況によっては、時期が前後する可能性がある
燃料デブリの分析が可能な施設へのA型輸送	輸送準備																			
	輸送																			
サンプリング																			2号機を対象に実施を検討中 * 装置の開発状況によっては、時期が前後する可能性がある	
B型輸送	輸送準備																			
	輸送																			

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。

青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目
①-27	固体放射性廃棄物	固体廃棄物貯蔵庫第10棟の設置
現状の取り組み状況		検討課題 (■は監視・評価検討会で提示されたもの)
・固体廃棄物貯蔵庫10棟の基本設計を実施中。 (ボーリング調査、地下水調査を実施中)		2022年度に竣工予定の減容処理設備の運開に合わせて、運用開始できるよう検討等を進める。

分類	内容	2018年度	2019年度										2020年度				備考
		10月~3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月 現時点	10月	11月	12月	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
設計・検討	設置の検討・計画																
許認可	実施計画																
現場作用	設置工事																

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。  
 青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	大項目	中項目	検討指示事項
②-1	液体Rw	滞留水の発生ゼロ(冷却水)	○燃料デブリ冷却水の完全循環化 ・冷却水による建屋内の滞留水の発生を実質的にゼロにするためには、原子炉建屋から直接取水し、処理後、直接注水する完全循環型の冷却について検討すること。 ・地下水の水位をT.P.-1,000mm以下に管理するとしているが、地下水の原子炉建屋への流入についてどのような管理を行うのか明確にすること。

現状の取り組み状況	検討課題(■は監視・評価検討会で提示されたもの)	今後の予定
<ul style="list-style-type: none"> <li>循環冷却システムの概念検討中。</li> <li>原子炉建屋について、タービン建屋同様に水位低下継続中。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>格納容器内水位制御方法、既設水処理システムとの関連をはじめ、メンテナンス性等運用面を含めた現場適用性を踏まえた、循環冷却のシステム構成等の検討。</li> <li>上記システム構築等の状況に応じて、極力水位を低下させつつ、循環注水の状況に応じて床面露出の実施可能性を検討。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2021年の燃料デブリ取り出し開始に向けた検討の一環として、システム構成の検討を行う。</li> <li>2020年までに、滞留水の水位低下により原子炉建屋からタービン建屋等への滞留水が流出しない状況を構築する。(各建屋貫通部の切り離し完了)</li> <li>2020年以降も継続して流入してくる雨水、地下水に対してはポンプで排水し極力低い水位を維持。</li> <li>床面露出方法について対策案を検討。</li> </ul>

工程表

分類	内容	2018年度	2019年度										2020年度				備考	
		10月~3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月 現時点	10月	11月	12月	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
設計・検討	水循環システム構築に向けたサプレッションチェンバ等からの取水技術開発	要求仕様の検討	■															
		要素技術の開発	■															
		総合試験	■															
	PCV内水位の計測・制御を行うシステムの設置検討												■					
運用	建屋滞留水水位低下	■															2020年内(建屋滞留水処理完了予定)	

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。  
 青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	大項目	中項目	検討指示事項
②-2	液体Rw	滞留水の発生ゼロ	<p>○1～3号機原子炉建屋を除く建屋における滞留水の処理完了後の地下水流入抑制</p> <p>・建屋内のスラッジの除去の程度により、今後地下水等の流入によって再び滞留水の発生の可能性もあることから、滞留水処理完了後において、新たな滞留水の発生を防ぐための流入抑制策等を検討すること。</p>
現状の取り組み状況		検討課題	今後の予定
<p>・滞留水処理完了後も継続して流入してくる雨水、地下水に対してはポンプにて排水し、最下階の床面露出を維持（1号機タービン建屋継続維持中）。</p> <p>・また、2～4号機タービン建屋水位低下と合わせて、建屋の雰囲気線量及びスラッジの性状等の調査を実施中。一部タービン地下中間部において、1000mSv/h程度の空間線量が確認されている。</p>		<p>・建屋雰囲気線量を踏まえつつ、建屋流入抑制を検討。</p>	<p>・建屋への地下水流入を完全に停止することは困難であるものの、引き続き陸側遮水壁の維持とサブドレン等での重層的な対策による流入抑制を考慮しつつ、スラッジ回収・安定化及び止水方策を検討。</p>
工程表			
<p>建屋雰囲気線量及びスラッジの性状等の調査を継続的に実施中。2020年末の床面露出に伴い、スラッジの性状、密度を確認することにより回収・安定化に関しての実効性を検討していく。</p>			

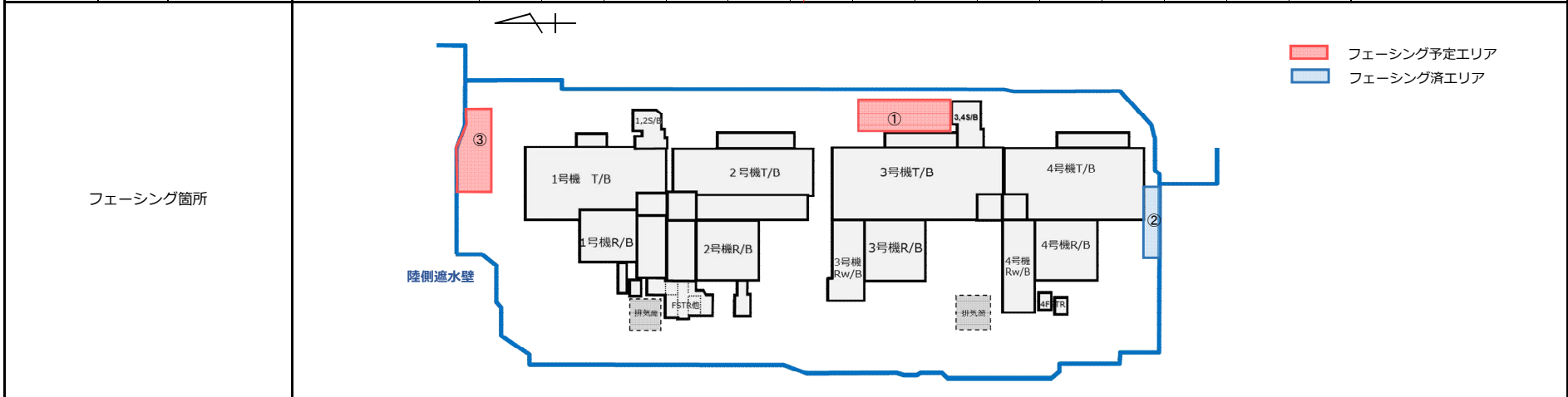
No.	大項目	中項目	検討指示事項	
②-3	SFP	SFP取出し	○使用済制御棒の取り出し ・具体的な使用済制御棒等の取り出し及び、その後の保管方法を明確にすること。	
現状の取り組み状況		検討課題		今後の予定
・万一のSFP漏えい発生時に備えた注水手段は確立済み。		・SFP廃止措置の全体方針，計画の策定。 ・対象物の取り出し方法，移送方法の検討。 ・搬出先の確保。 ・保管方法の検討。		・SFP内の使用済制御棒等は，高汚染・高線量物として保管することになると想定される。このため，安全対策や保管先の確保等の計画が必要になる。 ・一方，取り出し時期は，1F廃炉全体の状況を踏まえた優先度に基づき，決定する必要がある。
工程表				
取り纏まり次第、提示				



No.	大項目	中項目	検討指示事項	
②-4	SFP	SFP取出し	○水抜き ・使用済燃料プールからの水抜きの時期を明確にすること。	
現状の取り組み状況		検討課題		今後の予定
-		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ S F P 内の使用済制御棒等の取り出し完了。 ※使用済制御棒等の取り出しの解決</li> <li>・ S F P 水抜き方法，移送先，移送方法の検討。</li> <li>・ S F P 水抜き時のダスト飛散抑制策の検討。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ S F P からの水抜きは， S F P 内の使用済制御棒等の取り出し以降に可能となる。</li> <li>・ 一方，水抜き時期は，将来の S F P の利用計画等を考慮のうえ，決定する必要がある。</li> </ul>
工程表				
取り纏まり次第、提示				

No.	大項目	中項目	検討指示事項
②-5	液体Rw	汚染水の発生抑制	○建屋回りのフェーシング等 ・地下水の建屋への流入を抑制するために必要な措置であることから具体的な方法及び時期を明確にすること。
現状の取り組み状況		検討課題	今後の予定
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2号機取水電源ケーブルトレンチ他の充填等を9月21日に完了。</li> <li>・ 建屋周りのフェーシングとして、3号機タービン建屋東側エリアについては、2018年11月19日からヤード整備工事に着手。</li> <li>・ 4号建屋南側は道路整備にて2019年3月に完了。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 使用済燃料取り出しなどの廃炉作業とヤードが輻輳する。</li> <li>・ 建屋周辺のカレキ撤去が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ その他のエリアについては、計画が纏まった箇所から順次実施予定。</li> </ul>

工程表																		
対象箇所	分類	内容	2018年度		2019年度									2020年度				備考
			10月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月 現時点	10月	11月	12月	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
① 3号タービン 建屋東側	現場作業	フェーシング	検討指示事項No.①-6に記載															
② 4号タービン 南側	現場作業	道路整備他 (フェーシング)	■															2019年3月 完了
③ 1号タービン 北側	現場作業	道路整備他 (フェーシング)																4月23日 工事着手



赤字は前回からの変更箇所を示す。  
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	大項目	中項目	検討指示事項
②-6	液体Rw	溜まり水除去	○構内溜まり水等の除去 ・構内たまり水の所在については調査されているが、その後の処理については明確になっていない。今後の処理の方針を明確にすること。
現状の取り組み状況		検討課題	今後の予定
<ul style="list-style-type: none"> <li>・トレンチは、年1回、溜まり水の点検を実施。</li> <li>・1号機海水配管トレンチは、溜まり水の除去及び内部の充填を実施中。</li> <li>・集中環境施設廃棄物系共通配管ダクト（陸側遮水壁の外側）は、2018年12月3日から溜まり水の除去及び内部の充填に着手。</li> <li>・放水路は、溜まり水の濃度を監視中。</li> <li>・1号機逆洗弁ピットは、屋根掛けを完了。</li> <li>・3号機ピット内は、屋根を取り外し、2018年11月19日からヤード整備に着手し実施中。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・トレンチは、点検箇所の空間線量が高いなどの理由により、アクセスできない箇所がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トレンチの未点検箇所は、アクセス方法を見直す等により、計画的に点検予定。</li> <li>・1,2,4号機逆洗弁ピットは、3号機逆洗弁ピットの工事実績を踏まえて検討予定。</li> <li>・放水路は、排水ルートの変更と合わせて、対策を検討予定。</li> <li>・その他については、溜まり水の濃度などリスクの優先順等の検討結果を踏まえ、順次対策を実施予定。</li> </ul>

工程表

対象箇所	分類	内容	2019年度												2020年度				備考	
			2018年度 10月~3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月 現時点	10月	11月	12月	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q			
全般	現場作業	トレンチの点検	年1回、溜まり水の点検を実施																	
1号 海水配管 トレンチ	現場作業	溜まり水の除去・内部充填	[Gantt chart bar from Oct 2018 to Dec 2019]																	2017年12月より充填作業実施中 溜まり水の水質による水処理設備への影響を踏まえ、移送計画を変更
集中環境 施設廃棄 物系共通 配管ダクト	準備作業 (充填孔設置含む)		[Gantt chart bar from Oct 2018 to Nov 2018]																	充填孔4ヶ所設置完了
	現場作業	溜まり水の除去・内部充填	[Gantt chart bar from Dec 2018 to Feb 2019]																	陸側遮水壁の外側部分について、5/16溜まり水の除去・内部充填完了
2/4号機 DG連絡 ダクト	設計・検討		[Gantt chart bar from Oct 2018 to Nov 2018]																	充填孔・排水孔は3箇所
	現場作業	準備作業	[Gantt chart bar from May 2019 to Jun 2019]																	5月20日より開始
		溜まり水の除去・内部充填	[Gantt chart bar from Jun 2019 to Sep 2019]																	6月4日より開始 溜まり水の除去・内部充填は、陸側遮水壁の外側
3号機逆 洗弁ピット	設計・検討		[Gantt chart bar from Oct 2018 to Sep 2019]																	1,2,4号機逆洗弁ピットは、3号機逆洗弁ピットの工事実績を踏まえて検討予定。
	現場作業	充填・路盤補強	[Gantt chart bar from Oct 2018 to Sep 2019]																	

検討指示事項No.①-6に記載

赤字は前回からの変更箇所を示す。  
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	大項目	中項目	検討指示事項
②-7	液体Rw	溜まり水除去	○地下貯水槽の撤去 ・地下貯水槽については、周囲での漏えいの観測を行っているところであるが、今後の使用の可能性もないことから撤去の具体的な方法及び時期を明確にすること。

現状の取り組み状況	検討課題	今後の予定
<ul style="list-style-type: none"> <li>・漏えい後に、地下貯水槽内部の貯水と周辺の汚染土壌を回収した。</li> <li>・新たな汚染水の漏えいについては、地下貯水槽内部の水位を低く保っていること、及び継続中の地下水モニタリング結果から、可能性は低いと評価している。</li> <li>・地下貯水槽内部の残水回収作業は、2018年9月26日に完了。</li> <li>・解体・撤去の方針について検討中。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解体・撤去の実施にあたっては、大量の廃棄物が発生することから、廃棄物の減容・保管設備の整備計画と連携し、撤去時期を検討することが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄物設備の計画と連携しながら、撤去の方針およびスケジュール等を検討する。</li> </ul>

工程表																		
項目	分類	内容	2018年度			2019年度								2020年度				備考
			10月～3月			4	5	6	7	8	9 現時点	10	11	12	4Q	1Q	2Q	
水抜き	運用	残水回収作業																2018年9月26日完了
撤去	設計・検討	工法および工程の検討																廃棄物設備の設置計画（汚染土一時保管施設2020年頃運用開始、減容処理設備2022年度竣工・運用開始）と連携して撤去工程を検討する。

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。

青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	大項目	中項目	検討指示事項	
②-8	固体Rw	分析	<p>○放射性分析施設（第2棟）の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分析のニーズを明確にすること。</li> <li>・放射性分析施設（第2棟）が設置されるまで、必要な分析能力が確保されているのか確認すること。</li> </ul> <p>【重要検討課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放射性分析施設（第2棟）として、必要な分析能力が確保されているのか確認すること。</li> </ul>	
現状の取り組み状況			検討課題	今後の予定
<ul style="list-style-type: none"> <li>・燃料デブリの分析ニーズに関して、JAEAが「分析・研究施設専門部会」を設置し、専門家の方々の意見を踏まえ、分析項目の妥当性と、分析装置の設置方法を検討。</li> <li>・現在、その検討結果を踏まえて、詳細設計を実施中。</li> <li>・第2棟について、燃料デブリの取り出し開始に適したタイミングで開所する予定である。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後のデブリ取り出しを踏まえて、できる限り柔軟に対応できるよう設計での工夫を検討中。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JAEA、東電で連携し、合理的な施設設計に向け、引き続き対応。</li> </ul>
工程表				
取り纏まり次第、提示				

No.	大項目	中項目	検討指示事項	
②-9	固体Rw	廃棄物安定化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 除染装置スラッジの安定化処理に関する研究</li> <li>○ 除染装置スラッジの安定化処理設備設置</li> <li>・ 高台に移送することによって、津波対策は行われるものの、容器に収納した後、容器からの漏えいリスクを低減するため、ALPS スラリーと同様にスラッジの安定化処理を行う具体的な方法及び時期を明確にすること。</li> </ul>	
現状の取り組み状況			検討課題	今後の予定
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スラッジ抽出の過程における脱水を計画。 （“安定化処理”を別個に計画する必要があるかを今後判断）</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 抜き出し時にスラッジをどこまで脱水できるかについて検討。</li> <li>・ スラッジの脱水性の評価と脱水設備の設計具体化。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スラッジ抽出に関する実施計画変更申請への反映に向けて検討を進める。</li> </ul>
工程表				
<p>取り纏まり次第、提示</p>				

No.	大項目	中項目	検討指示事項
②-10	固体Rw	廃棄物安定化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○濃縮廃液の安定化処理設備設置</li> <li>・容器からの漏えいのリスク低減のために濃縮廃液の安定化処理を行う具体的な方法及び時期を明確にすること。</li> </ul>
現状の取り組み状況		検討課題	今後の予定
<ul style="list-style-type: none"> <li>・濃縮廃液の炭酸塩スラリー成分は、収集し、新たに設けた堰・遮へい内に設置した横置きタンクに集約しての保管に移行済み。</li> <li>・同様に炭酸塩であるALPSスラリーの安定化処理を進めたのちに、同じ装置で統合処理する方針。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ALPSスラリーの安定化処理に向けて設置する装置で濃縮廃液スラリーを安定化する処理条件の確認。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スラリーの採取・分析の計画を立てる。</li> <li>・採取したサンプルを構外運搬して分析に供し、これに類似する模擬スラリーを作成し、脱水性の確認試験を行う。</li> </ul>
工程表			
<p>同様な炭酸塩であるALPSスラリーの安定化処理を進めた後、同じ装置で統合処理する方針（No.1-⑭参照）</p>			

No.	大項目	中項目	検討指示事項
②-11	地震・津波	地震	<p>○検討用地震動への対応方針</p> <p>・検討用地震動を用いた格納容器（サブプレッションチェンバ等）の耐震性評価を実施すること。</p> <p>【重要検討課題】</p> <p>・3号機サブプレッションチェンバの耐震性</p>

現状の取り組み状況	検討課題(■は監視・評価検討会で提示されたもの)	今後の予定
<p>・耐震性向上策として、サブプレッションチェンバ脚部補強技術、水抜きのため原子炉格納容器内水循環システム構築技術（格納容器からの取水技術）を検討中。</p> <p>・建屋滞留水の系外流出抑制策としては、建屋滞留水処理（建屋水位低下）が有効であると考えており、現状の計画通り滞留水処理を実施中。</p>	<p>・耐震性向上策（補強、水位制御）実施時の効果、リスクを踏まえた燃料デブリ取り出し工法への影響等の検討。</p> <p>■水位が高い3号サブプレッションチェンバについて、耐震性評価と早期の水位低下の検討（第62回、第71回）</p>	<p>・2021年の燃料デブリ取り出し開始に向けた検討の一環として、検討を行う。</p>

工程表

分類	内容	2018年度	2019年度										2020年度				備考	
		10月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月 現時点	10月	11月	12月	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
設計・検討	要求仕様の検討																	
	要素技術の開発																	
	チェンバ等からの取水技術開発																	
	総合試験																	
	PCV内水位の計測・制御を行うシステムの設置検討																	
運用	建屋滞留水水位低下																	2020年内（建屋滞留水処理完了予定）

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。

青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。



No.	大項目	中項目	検討指示事項																
②-12	環境への負荷低減	—	○排水路の水の放射性物質の濃度低下 ・更なる環境への負荷低減のため排水路の水の放射性物質の濃度低下のための具体的方策を検討すること。																
現状の取り組み状況			検討課題										今後の予定						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・排水路及びタービン建屋雨樋への浄化材設置、道路・排水路清掃、各建屋屋根面のガレキ撤去等を実施中。</li> <li>・2号機原子炉建屋屋根面の敷砂等撤去完了。</li> <li>・1～3号機タービン建屋下屋雨どいの浄化材設置は、2018年9月21日完了。</li> <li>・1,2,4号機タービン建屋上屋雨どいの浄化材設置は、2019年3月7日完了。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・各建屋のガレキ撤去については、使用済燃料取り出しなど他の廃炉作業とヤードが輻輳する。</li> </ul>										<ul style="list-style-type: none"> <li>・降雨時に雨どいの採水分析を行い、浄化材の効果確認を実施予定。</li> <li>・各建屋の雨水対策工事（ガレキ撤去）の工程については、検討指示事項No.①～5,6を参照</li> </ul>						
工程表																			
実施項目	分類	内容	2018年度	2019年度											2020年度				備考
			10月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月 現時点	10月	11月	12月	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
1～3号タービン建屋下屋雨どいの浄化材設置	現場作業	浄化材設置																	2018年9月21日 完了
1, 2, 4号タービン建屋上屋雨どいの浄化材設置	現場作業等	浄化材製作, 設置																	2019年3月7日 完了
道路・排水路清掃	現場作業	清掃	道路・排水路の清掃を継続実施																
建屋の雨水対策(ガレキ撤去)	各建屋の雨水対策工事（ガレキ撤去）の工程については、検討指示事項No.①～5,6を参照																		

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。  
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	大項目	中項目	検討指示事項	
②-13	環境への負荷低減	—	○建屋周辺ガレキの撤去 ・排水路へ流れる雨水等の放射性物質の濃度を低減するため、放射性物質が付着している建屋周辺のガレキの撤去について検討すること。	
現状の取り組み状況			検討課題	今後の予定
・2016年度末までに、2号機原子炉建屋西側の路盤整備を完了。			・使用済燃料取り出しなど他の廃炉作業とヤードが輻輳する。	・3号機原子炉建屋南側の高線量ガレキについて、撤去計画を2019年度内に策定予定。
工程表				
取り纏まり次第、提示				

No.	大項目	中項目	検討指示事項
②-14	施設内調査	タンク総容量削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多核種除去設備処理水の規制基準を満足する形での海洋放出等</li> <li>・多核種除去設備処理水の規制基準を満足する形での海洋放出等について早期に判断すること。</li> </ul>
現状の取り組み状況		検討課題	今後の予定
<ul style="list-style-type: none"> <li>・フランジ型タンク内Sr処理水のALPS処理，建屋滞留水処理に必要なALPS処理水タンク容量として，設置済の未使用分を含めて2020年中までに約48万m3を確保する予定。</li> <li>・最終的なALPS処理水の取り扱いについては，現在，国の小委員会において，技術的かつ社会的な観点から総合的な検討が進められており，当社も小委員会の議論に参加している。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術的な側面のみならず，社会的な安心が前提であり，小委員会の議論を踏まえ，国および関係者のご意見を伺い，対応方針を決定していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国の小委員会の議論を踏まえ，国および関係者のご意見を伺い，対応方針を決定していくとともに，必要となる設備構築を行っていく。</li> </ul>
工程表			
<p>取り纏まり次第、提示</p>			

No.	大項目	中項目	検討指示事項
②-15	施設内調査	デブリ小規模取出し	<p>○小規模取出しに係る安全対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全確保の観点から、具体的な方法を早期に示すこと。</li> </ul>
現状の取り組み状況		検討課題	今後の予定
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年の燃料デブリ取出しは、RPVペDESTAL内のデブリに直線的にアクセス可能なX6ペネからの横アクセスによる小規模な取出しから開始することを想定。</li> <li>・現場環境や他工事（使用済み燃料プール取出し等）との干渉等の総合的な現場状況、最新のPCV内調査状況等を考慮した工法を検討しているところ。工法を成立させる上での技術的課題の抽出を実施。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模取出しプロセス検討（取り出し～保管）。</li> <li>・現行設備での、PCV閉じ込め機能維持評価、冷却維持機能評価、臨界管理評価等の取り出しシステム成立性検討。</li> <li>・取出した燃料デブリの保管方法の検討。</li> <li>・3号機PCV水位制御方法検討。</li> <li>・原子炉建屋内の線量低減・干渉物撤去。</li> <li>・計量管理の方針検討。</li> <li>・他作業との作業干渉の検討 等。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年の燃料デブリ取り出し開始に向けて、解決すべき課題の優先順位も含めて、適切な時期に解決可能なよう、検討を進める。</li> </ul>
工程表			
<p>取り纏まり次第、提示</p>			

No.	大項目	中項目	検討指示事項	
②-16	施設内調査	デブリ本格取出し	<p>○本格取り出しに係る安全対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全確保の観点から、具体的な方法を示すこと。</li> </ul>	
現状の取り組み状況			検討課題	今後の予定
<p>・2021年の燃料デブリ取出しは、RPVベDESTAL内のデブリに直線的にアクセス可能なX6ペネからの横アクセスによる小規模な取出しから開始することを想定。</p> <p>・現場環境や他工事（使用済み燃料プール取出し等）との干渉等の総合的な現場状況、最新のPCV内調査状況等を考慮した工法を検討しているところ。工法を成立させる上での技術的課題の抽出を実施。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模取り出しプロセス検討（取り出し～保管）。</li> <li>・現行設備での、PCV閉じ込め機能維持評価、冷却維持機能評価、臨界管理評価等の取り出しシステム成立性検討。</li> <li>・取出した燃料デブリの保管方法の検討。</li> <li>・3号機PCV水位制御方法検討。</li> <li>・原子炉建屋内の線量低減・干渉物撤去。</li> <li>・計量管理の方針検討。</li> <li>・他作業との作業干渉の検討 等。</li> </ul>	<p>・2021年の燃料デブリ取り出し開始に向けて、解決すべき課題の優先順位も含めて、適切な時期に解決可能なよう、検討を進める。</p>
工程表				
<h2>取り纏まり次第、提示</h2>				

No.	大項目	検討指示事項
②-17	—	○構内設備等の長期保守管理計画の策定

現状の取り組み状況	検討課題	今後の予定
<p>・廃炉・汚染水対策で使用中の設備については、マニュアルに基づき保全重要度を設定し、点検長期計画を策定して点検・手入れを実施</p> <p>・震災後の環境変化を踏まえ、廃炉を進める上で特に注視すべきリスクを抽出し、該当する設備（機器）に対して、経年劣化モードを踏まえた長期保守管理計画を策定していく。</p> <p>長期保守管理計画の策定にあたっては、下記フローに基づき検討を進めている</p> <p>&lt;検討フロー&gt;</p> <p>①リスクの整理 → ②設備、機器の抽出 →</p> <p>③現在の状況、管理状態の確認 → ④現在の状況、管理状態の評価 →</p> <p>⑤対策の検討 → ⑥長期保守管理計画の策定</p>	<p>①リスクの整理 廃炉・汚染水対策を進める上で特に注視すべきリスクを抽出</p> <p>②設備、機器の抽出（リストアップ） 構内全域の設備を対象に、リスクに照らし合わせて評価対象設備を抽出</p> <p>③現在の状況、管理状態の確認 現在の劣化の進展状況や現在の管理状態を確認</p> <p>④現在の状況、管理状態の評価 現在の劣化の進展状況や経年劣化モードを踏まえ、現在の管理状態が妥当であるか評価</p> <p>⑤対策の検討 それぞれのリスクに応じて設定した優先度に基づき、対策を検討</p> <p>⑥長期保守管理計画の策定 対策の検討結果を踏まえ、長期保守管理計画を策定</p>	<p>・優先度の高い項目について、今年度内を目途に長期保守管理計画を策定し、次年度以降、これに基づく対応を実施予定</p> <p>・適切な保守管理を実施していくため、本取り組みについては、今後も定期的に見直しを行う。今年度内を目途に、定期見直しの方針を策定する予定</p>

工程表

分類	内容	2018年度		2019年度									2020年度				備考		
		10月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月 観時点	10月	11月	12月	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q			
検討	リスクの整理		■																
	設備、機器リストアップ		■																
	現状、管理状態の確認		■																
	現状、管理状態の評価		■																
	対策の検討												→						
	長期保守管理計画の策定(優先度高の追加対策検討)												□						
	長期保守管理計画の策定(それ以外の追加対策検討)													→					
	長期保守管理計画の策定(今後の見直し方針の検討)													□					

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。  
黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	大項目	中項目	検討指示事項
③-1	液体Rw	滞留水処理	<p>○原子炉建屋（R/B）内の処理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原子炉建屋内の滞留水の処理方針を検討すること。</li> </ul> <p>○燃料デブリ冷却の方針決定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原子炉建屋内の滞留水を処理するため、将来において燃料デブリ冷却水を用いない方法に変更する必要があるか否かを検討すること。</li> </ul> <p>○燃料デブリ冷却の空冷化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原子炉建屋内の滞留水を処理するため、燃料デブリの冷却方法を空冷化とする必要があるか否かを検討すること。</li> </ul> <p>【重要検討課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3号機サプレッションチェンバ内の水が流出した際の影響評価</li> <li>・3号機燃料デブリ冷却等に必要PCV内の水の最適な保持量</li> <li>・3号機原子炉建屋水位低下に伴うデブリ空冷化</li> </ul>

現状の取り組み状況	検討課題	今後の予定
<ul style="list-style-type: none"> <li>・原子炉建屋について、タービン建屋同様に水位低下継続中。</li> <li>・原子炉注水については、2012年以降これまで段階的に注水量を低減してきた。</li> <li>・燃料デブリ取り出しの観点からは、現行の設備で実施可能な小規模なものから開始し、燃料デブリの性状などの知見を踏まえ段階的に規模を拡大することを想定。</li> <li>・小規模の燃料デブリ取り出しにおいては、現在の注水冷却方式を維持し、取り出し規模が拡大される段階で、冷却方式だけではなく、放射性物質の閉じ込め、臨界管理等のシステム検討や、燃料デブリ加工時の冷却方法の検討等、総合的に冷却方式を検討中。</li> <li>・注水停止に伴う安全への影響を考察し、その結果を踏まえ原子炉注水を一時的に停止する試験を2号機で実施。概ね予測どおりの温度上昇であった。</li> <li>・1, 3号の注水停止試験の検討に着手。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・循環注水を行っている1～3号機原子炉建屋については極力水位を低下させつつ、循環注水の状況に応じて床面露出の実施可能性を検討。</li> <li>・燃料デブリの加工に伴う冷却方式。</li> <li>・冷却方法の変更に伴う安全機能（閉じ込め、臨界管理等）への影響の検討について、定量的な評価が困難なものがある。</li> <li>■早期のS/C水位低下実現に向けた手法（既設配管等の活用）の検討。（第69回）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年までに、滞留水の水位低下により原子炉建屋からタービン建屋等への滞留水が流出しない状況を構築する。（各建屋貫通部の切り離し完了）床面露出方法について対策案を検討。</li> <li>・2021年の燃料デブリ取り出し開始に向けた検討の一環として、冷却方式の検討を行う。</li> <li>・2号機の注水停止試験の結果を踏まえ、次の注水停止試験を検討する。</li> </ul>

工程表

分類	内容	2018年度		2019年度										2020年度				備考	
		10月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月 現時点	10月	11月	12月	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q			
設計・ 検討	水循環システム 構築に向けたサ プレッション チェンバ等から の取水技術開発	要求仕様 の検討	[進捗]																
	要素技術 の開発	総合 試験	[進捗]																
		PCV内水位の計測・制御を 行うシステムの設置検討	[進捗]																
	注水の一時的な停止試験	2号機注水停止試験(5/24終了)																	
運用	建屋滞留水水位低下	[進捗]																2020年内（建屋滞留水処理完了予定）	
設計・ 検討	1～3号機原子炉建屋水位低 下計画の検討	取り纏まり次第、提示																	

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。  
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	大項目	中項目	検討指示事項
③-2	地震・津波	地震	<p>○建屋構造物の劣化対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建屋内の水没している箇所等については、腐食等の可能性があり、構造物としての劣化が懸念される。今後、長期に渡って廃炉作業を円滑に進める観点から、廃炉作業に必要とされる建屋の健全性維持のため劣化対策が必要と考えるが、方針を検討すること。</li> </ul>

現状の取り組み状況	検討課題	今後の予定
<ul style="list-style-type: none"> <li>・1~4号機原子炉建屋は、損傷状況を考慮した建物モデルを用いた地震応答解析により倒壊に至らないことを確認済み。</li> <li>・原子炉建屋については、線量環境に応じた調査を実施しており、4号機については定期的に建屋内部に入り目視等で躯体状況を確認している。</li> <li>・1~3号機については、高線量エリアであるため調査範囲が限定されており、建屋内外の画像等から調査出来る範囲の躯体状況を確認している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃炉作業に必要とされる建屋の健全性クライテリアの検討。</li> <li>・高線量エリアにおける躯体状況の確認方法の検討。</li> <li>・要求クライテリアに対する劣化防止対策の検討。</li> </ul> <p>■劣化により倒壊するリスクがある原子炉建屋以外の建屋、格納容器およびS/C支持構造物等の劣化対策（第68回）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・燃料デブリの取り出し検討状況等を踏まえ、適切な時期に解決可能なよう、検討を進める。</li> </ul>

工程表																		
分類	内容	2018年度		2019年度										2020年度				備考
		10月~3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月 現時点	10月	11月	12月	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
検討	健全性クライテリアの検討	[Blue bar spanning from 2018 Oct to 2019 Dec]																
	躯体状況確認・調査方法の検討													[Blue bar spanning from 2020 1Q to 2020 4Q]				健全性クライテリアの検討状況を踏まえ変更の予定有り

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。  
 青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。



No.	大項目	中項目	検討指示事項	
③-3	環境負荷低減	—	<p>OT.P.2.5m 盤の環境改善</p> <p>・ T.P.2.5m 盤の地下には、放射性物質に汚染されている箇所があり、その状況についてモニタリングがなされているところである。今後の放射性物質の除去に係る方針を検討すること。</p>	
現状の取り組み状況			検討課題	今後の予定
<p>・ 護岸部の地盤改良（水ガラス）及び海側遮水壁により海域への漏えいを防止するとともに、2.5m盤のフェーシングにより雨水の浸透を抑制している。また、ウエルポイントにより地下水をくみ上げ、濃度を監視している。</p>			<p>・ 対策（土壌の回収・洗浄、地下水の浄化）の方針及び廃棄物の処理方法の検討が必要。</p>	<p>・ 2.5m盤、6m盤法面、8.5m盤（陸側遮水壁外側）フェーシング完了（2020年）以降の対策実施に向けて、対策案を検討予定。</p>
工程表				
取り纏まり次第、提示				